

東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災から2年。いつどこで起こるか分からない災害には、日頃の備えや心構えが必要です。そこで今回の特集では、地域の防災力向上のために活躍している消防団・少年消防クラブの活動を紹介します。

少年消防クラブ

少年消防クラブは、小学生から中学生までが加入できるクラブです。

火災がどのように起こるのかを学んだり、消防署や消防車両の見学、野外研修、防火パトロールなどを行っています。このような防災に関するさまざまな体験を通じて、普段学校や家庭では学ぶ機会の少ない防火・防災の意識を育てるとともに、将来の地域防災の担い手育成へとつなげています。

現在、新年度の新人クラブ員を募集中です。仲間と一緒に、身近なところから防災を考えてみませんか？

普段、どのような活動を行っていますか？

毎月1回、整列などの規律訓練を行っています。秋には区内5つの少年消防クラブが「たなか競争」などで競い合う防火体育祭にも参加しました。その他、夏はキャンプ、冬は餅つき大会などを行い、クラブ員はもちろん、他の少年消防クラブや区内の大学生とも親睦を深めています。

クラブに入り、防災への意識は変わりましたか？

鈴木さん：災害時にどんなことをすればよいか、普段からどんな物を家に置いておけばよいか考えるようになりました。玄関にはいつも懐中電灯を置いています。

福岡部長：避難所体験は今年で7回目ですが、東日本大震災が起こったこともあり、年々、子どもたちが必要な物を自分で考えて持って来ようになったと感じています。



平岸中の島少年消防クラブ
福岡 史恵部長・鈴木 梨菜さん

こんなこと
やっています！

【冬の災害避難所体験】

雪国として厳寒期に被災する可能性もあることから、冬、暖房の無い中で寝泊まりし、親子で防災について考えました。



◀グループワーク
「何持って逃げる？」

▶暖房と電気を止めた部屋で、非常食で晩ご飯。



◀夜は厚着をして、寝袋や毛布にくるまり就寝。



少年消防クラブについてのお問い合わせ：豊平消防署予防課 ☎852-2100

もう一度
確認しよう！

非常時への 備え

～非常用持ち出し品～

日頃から、リュックなどに必要な物を入れて、いつでも持ち出せる場所に保管、定期的な点検を行いましょう。



□食料品

飲料水（1人1日3リットル、3日分）
缶詰、インスタント食品など（3日分）



□衣類

下着、タオル、軍手など
※冬期間は、厚手の下着、ジャンパーなどの防寒着、携帯カイロなど

□救急セット

傷薬、胃腸薬、目薬、脱脂綿、包帯など

□貴重品

現金、預貯金通帳、キャッシュカード、印鑑など

□安全具

ヘルメットなどの保安帽



□その他

携帯ラジオ、懐中電灯、ナイフ、ライター、ろうそく、ウエットティッシュなど

※この他、赤ちゃんのいる家庭ではミルク、哺乳瓶、おむつなど、食品アレルギーのある方は体質に合った食料品など、各家庭の状況に応じて、必要な物を用意しておきましょう。

